

3 事業概要

3.1 環境情報部環境活動推進課

3.1.1 企画調整業務

調査研究部が実施する調査研究業務（一部の研究課題は環境活動推進課が担当）の企画推進及び研究成果の普及を実施した。また、人材育成、依頼に基づく職員の派遣、広報及び普及啓発に関する業務を行った。

(1) 調査研究業務の企画推進

平成26年度実施課題として設定したプロジェクト研究等9課題の研究について進行管理を行った。26年度の成果については研究結果説明会で内部評価を行った。

また、平成27年度の研究課題を企画した。はじめに研究課題の設定・調整を行い、研究計画説明会において内部評価、ついで研究推進委員会において外部評価を行い、その結果を公表した。

事業名又は項目	概要
ア 調査研究課題の設定・調整	H27年度に実施する研究課題について、関係行政機関に対しニーズ調査を行い、規制部局の要望を参考に調査研究課題の設定を行った。
イ 研究計画等説明会（内部評価）	環境科学センター研究業務実施要綱に基づき、H25年度研究課題の成果説明会をH26.5.20(火)、H27年度研究課題説明会をH27.1.16(金)に開催し、重点課題について評価を行った。
ウ 研究推進委員会（外部評価）	調査研究を適正かつ効果的に推進するため、桜美林大学リベラルアーツ学群片谷教孝教授を委員長とする学識経験者4名で構成する研究推進委員会をH27.2.12(木)に開催し、H27年度に実施する次の研究課題について外部評価を実施した。 (ア) 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明（プロジェクト研究） (イ) 微小粒子状物質中の有機炭素成分の指標化の検討（プロジェクト研究） (ウ) 水源河川におけるモニタリング調査手法の構築（プロジェクト研究） (エ) 相模湖上流域における炭素繊維を用いたリン浄化に関する検討（地域課題研究） (オ) 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究（地域課題研究）

(2) 研究成果の普及

調査研究成果の普及啓発として、業績発表会や環境研究合同発表会を開催するとともに、業務報告の作成及び学会等への発表を行った。

※ ゴシック表記の氏名は、当センター現職員であることを示す。以下同じ。

事業名又は項目	概要
ア 環境研究合同発表会	当センター、横浜市環境科学研究所及び川崎市環境総合研究所の3機関で構成する「神奈川県環境研究機関協議会」の主催により、環境月間中のH26.6.6(金)に横浜市技能文化会館にて「第38回環境研究合同発表会」を開催し、次の研究発表を行った。参加者88人。 演題1 河川底生生物から見た川崎市内の河川環境の変遷（小林弘明【川崎市環境総合研究所】） 演題2 小学生による市民協働生き物調査（岩崎美佳【横浜市環境科学研究所】） 演題3 バイオアッセイによる目久尻川の水質評価（大塚知泰【調査研究部】） 演題4 産学公民連携による共同研究事業の取組について（深堀孝博【川崎市環境総合研究所】） 演題5 神奈川県における微小粒子状物質（PM2.5）の特徴について（小松宏昭【調査研究部】） 演題6 光化学オキシダント生成に係るVOC調査、及びPM2.5高濃度日の解析（福崎有希子【横浜市環境科学研究所】） 特別講演 PM2.5の健康影響と環境基準について（新田裕史氏【(独)国立環境研究所 環境健康研究センター】）

事業名又は項目	概要
イ 環境科学センター企画展	研究成果の県民への普及を図ることを目的に、H26.12.19(金)に地球市民かながわプラザにて微小粒子状物質の調査研究をテーマとした環境科学センター企画展を開催し、次の研究発表を行った。参加者30人。 演題1 PM2.5の基礎知識(新井聡史【調査研究部】) 演題2 神奈川県内の実態(小松宏昭【調査研究部】) 演題3 生成要因の解明に向けて(武田麻由子【調査研究部】)
ウ 環境科学センター研究報告の発行	当センターの前年度の研究成果等の報告として、次の研究報告を掲載した「平成26年版(2014)神奈川県環境科学センター研究報告 第37号」をH27.3に発行し、当センターwebサイトに掲載した。 (ア) 道路近傍における重金属の環境実態とリスク評価(三島聡子、石割隼人【調査研究部】) (イ) 生態影響試験を用いた目久尻川の水質について(大塚知泰、石割隼人、三島聡子、長谷川敦子、坂本広美【調査研究部】) (ウ) 相模湖水中の低濃度リンの直接浄化に関する検討(秀平敦子、井上 充【調査研究部】、池田佳世【横須賀三浦地域県政総合センター】) (エ) 厚木飛行場周辺の航空機騒音について(石井 貢【環境情報部】) (オ) 道路交通振動に係る要請限度の検証(横島潤紀【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大学】、白石英孝【埼玉県環境科学国際センター】、太田篤史、田村明弘【横浜国立大学】)
エ 学会等への発表	研究成果の公表として、表3.1.1-1に示す論文等の発表、表3.1.1-2に示す口頭発表を行った。
オ その他	(ア) 調査研究成果に基づく特許の保有状況は次のとおり。 ▶ 特許3554842号(H16.5.21)「強酸性土壌を中性化する新規微生物」(発明者 惣田昱夫) ▶ 特許3668798号(H17.4.22)「生物ろ過装置」(発明者 井上 充、庄司成敬、三島聡子) ▶ 特許5561752号(H26.6.20)「アルコールの製造方法」(発明者 渡邊久典) (イ) 調査研究その他の業績により、職員がH26年度中に受けた表彰は、次のとおり。 ▶ H26.5.15(木)「第21回環境化学論文賞」(三島聡子【調査研究部】) ▶ H26.9.26(金)「全国環境研協議会関東甲信越支部長表彰」(坂本広美【調査研究部】) ▶ H26.11.6(木)「神奈川県環境農政局長表彰」(平野恵美子【管理課】) ▶ 「神奈川県環境農政局長表彰」(三島聡子【調査研究部】) ▶ H27.3.20(金)「神奈川県環境農政局長表彰」(ガソリンベーパー対策チーム【管理課】【調査研究部】)

表 3.1.1-1 論文等発表

著者【所属】	題目	学会誌等名称
横島潤紀【環境情報部】	「振動に関わる苦情への対応」 -第6回 鉄道、道路、工場・事業場-	公害等調整委員会機関紙「ちょうせい」78号(2014)
小谷朋央貴【フジタ】、富田隆太【日本大】、横島潤紀【環境情報部】、伊積康彦【鉄道総研】、佐野泰之【愛知工大】、後藤剛史【法政大】	木造家屋内における鉄道走行時の振動実測結果について-軌道の高架化前後における振動特性の比較-	日本建築学会技術報告集、(46),1007-1010(2014)

※ 上記のほか、平成23年度に当センター実施の調査研究成果をもとに次の報文が発表された(当センター職員は2nd オーサー)
木村喜芳、齋藤和久、森上義孝、茅ヶ崎市の淡水魚類相(第3報)、茅ヶ崎市文化資料館調査研究報告(24),21-46(2015)

表 3.1.1-2 口頭発表

発表者・連名者【所属】	発表テーマ	学会名・発表年月 (開催場所)
横島潤紀【環境情報部】、森長 誠【防衛施設協会】、川井敬二、矢野 隆【熊本大】	社会音響調査データアーカイブ(SASDA)のこれからの展開	2014年騒音制御工学会 春季研究発表会
横島潤紀【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】、森原 崇【石川高専】、佐野泰之【愛知工大】、田村明弘【横浜国大】	交通振動の暴露反応関係	H26.4 (国立オリンピックセンター)
三島聡子、長谷川敦子【調査研究部】	神奈川県内の河川における有機フッ素化合物の実態	第23回環境化学討論会 H26.5 (京都大学)
横島潤紀【環境情報部】、森原 崇【石川高専】、矢野 隆【熊本大】、川井敬二【熊本大】、太田篤史、田村明弘【横浜国大】	Estimation of combined annoyance due to Shinkansen Railway noise and vibration using mean structure model	The 1th International Congress on Noise as a Public Health H26.6 (奈良県新公会堂)
横島潤紀【環境情報部】、松本泰尚【埼玉大】、森原 崇【石川高専】、佐野泰之【愛知工大】、田村明弘【横浜国大】	Exposure-response relationship due to ground transportation vibration in Japan	
横島潤紀【環境情報部】、森原 崇【石川高専】、森長 誠【防衛施設協会】、川井敬二、矢野 隆【熊本大】、太田篤史、田村明弘【横浜国大】	新幹線鉄道騒音・振動に対する複合被害感—平均構造モデルを用いた推計—	音響学会騒音振動研究会 H26.8 (長崎大学)
横島潤紀【環境情報部】、森原 崇【石川高専】、川井敬二、矢野 隆【熊本大】、太田篤史、田村明弘【横浜国大】	新幹線鉄道騒音の暴露反応関係の調査間比較—社会音響調査データを用いた再検討—	音響学会 2014年秋季研究発表会 H26.9 (北海学園大学)
太田篤史【横浜国大】、横島潤紀【環境情報部】、川井敬二【熊本大】、森長 誠【防衛施設協会】、森原 崇【石川高専】	日本国内における道路交通騒音の暴露-反応関係の導出—社会調査データアーカイブ(SASDA)を利用して—	
小松宏昭、武田麻由子【調査研究部】、志村 徹、小森陽昇【横浜市環境科学研究所】、白砂裕一郎、小澤宏樹【横浜市環境監視センター】、鈴木義浩、平山 学【川崎市環境総合研究所】	神奈川県における PM2.5 高濃度事例の解析(2) 2013年8月—成分分析結果—	第55回大気環境学会年会 H26.9 (愛媛大学)
武田麻由子、小松宏昭【調査研究部】、志村 徹、福崎有希子【横浜市環境科学研究所】、白砂裕一郎、小澤宏樹【横浜市環境監視センター】、鈴木義浩、平山 学【川崎市環境総合研究所】	神奈川県におけるPM2.5高濃度事例の解析(3)—CMB等解析結果—	
平山 学、鈴木義浩【川崎市環境総合研究所】、小松宏昭、武田麻由子【調査研究部】、志村徹、福崎有希子【横浜市環境科学研究所】、白砂裕一郎、小澤宏樹【横浜市環境監視センター】	神奈川県における PM2.5 高濃度事例の解析(1) 2013年8月—硫酸イオン分析結果—	
横島潤紀【環境情報部】、太田篤史、田村明弘【横浜国大】	神奈川県内における新幹線騒音・振動に対する社会反応	2014年騒音制御工学会 秋季研究発表会
横島潤紀【環境情報部】、富田隆太【日本大】、小谷朋央貴【フジタ】、伊積康彦【鉄道総研】	建築物内部における環境振動測定に関するアンケート調査	H26.9 (明治大学)
森原 崇【石川高専】、横島潤紀【環境情報部】、下山晃司【熊本大】	長野新幹線の騒音と振動による居住環境への影響	
松本泰尚【埼玉大】、横島潤紀【環境情報部】	交通振動に対する社会反応と振動評価量の関係に関する検討	2014年度日本建築学会 大会
小谷朋央貴【フジタ】、伊積康彦【鉄道総研】、富田隆太【日本大】、佐野泰之【愛知工大】、横島潤紀【環境情報部】、後藤剛史【GT建築工房】	木造家屋における環境振動測定方法の検討—被験者の影響について—	H26.9 (神戸大学)

(3) 人材育成

県及び市町村環境関係業務担当職員を対象とした人材育成に係る研修業務等を実施した。

事業名又は項目	概要
ア 大気水質等担当職員研修	<p>県及び市町村の大気水質等の行政に携わる職員を対象に、次の研修を実施した。</p> <p>(ア) 環境保全関係法令研修 主要な環境保全法令の基礎知識、許認可の事務手続き等に関する16講座の研修をH26.4.23(水)、25(金)及び5.1(木)に実施した。受講者延べ134人。</p> <p>(イ) 技術研修 水質の簡易分析法、騒音及び臭気測定法の実習、アスベスト除去工事確認検査実習に関する19講座の研修をH26.10.9(木)、16(木)^{注1}、28(火)、30(木)、11.4(火)^{注2}、7(金)に実施した。受講者延べ117人。 ^{注1} 神奈川県内広域水道企業団社家取水管理事務所で実施 ^{注2} (学)鎌倉学園で実施</p>
イ 廃棄物対策担当職員研修	<p>県及び廃棄物処理法の政令4市の廃棄物行政に携わる職員を対象に、主要な廃棄物関係法令の基礎知識、許認可の事務手続き、行政検査の方法等に関する14講座の研修をH26.4.24(木)、30(金)、5.8(木)^注に実施した。受講者延べ87人。 ^注 かながわ環境整備センターで実施。</p>
ウ 研修派遣	<p>環境問題全般に関する専門的知識と技術を取得するために環境省環境調査研修所や各種学会等が主催する研修等に職員を派遣した。</p> <p>(ア) 環境省環境調査研修所主催研修 ▶ アスベスト分析研修(第1回)(H26.6.2(月)～6(金))：石割隼人 ▶ 環境モニタリング技術研修(H26.7.29(火)～8.1(金))：鈴木理沙子 ▶ 石綿位相差顕微鏡法研修(第3回)(H27.1.26(月)～28(水))：十河孝夫</p> <p>(イ) 学会及びその他の研修 学会の聴講のほか、学会主催セミナー、シンポジウムに適宜参加した。</p>

(4) 依頼に基づく職員の派遣

外部機関、団体等からの要請に応じて、公設試験研究機関としての特性を生かした出前講座等への講師派遣、審議会等への委員の派遣を行った。

事業	概要
ア 講師派遣	<p>当事業者団体や大学等からの依頼を受けて、講習会、研修会の講師として表3.1.1-3に示すとおり職員を3回派遣した。</p>
イ 出前講座	<p>県民の環境保全に対する理解を増進するため、主催者からの依頼により表3.1.1-4に示すとおり出前講座に職員を17回派遣した。受講者数736人。</p>

表 3.1.1-3 講師派遣

講師	所属	演題等	派遣先(主催機関)	日付
横島潤紀	環境情報部	振動・振動防止研修	環境省環境調査研修所	H26.6.9(月)
横島潤紀	環境情報部	地球温暖化問題	東京工芸大学	H26.7.17(木)
秀平敦子	調査研究部	測定値の信頼性確保への取り組み	神奈川県環境計量協議会	H26.10.24(金)

表 3.1.1-4 出前講座

講師	所属	講座名	依頼元	日付	参加者
飯田信行	調査研究部	金目川用水路にて生き物観察会	金目川水系流域ネットワーク	H26.4.20(日)	26
池貝隆宏	環境情報部	大気汚染の現状と課題	県立川崎図書館	H26.6.13(金)	33
小松宏昭	調査研究部	県内における PM2.5 及び光化学スモッグの最近の状況について	秦野市環境保全課	H26.6.19(木)	60
横島潤紀	環境情報部	地球温暖化について	桜美林大学日本語プログラム	H26.7.2(水)	15
齋藤和久	環境情報部	田んぼの生き物ウォッチング	伊勢原市立石田小学校土曜クラブ	H26.7.5(土)	34
齋藤和久	環境情報部	田越川さかな観察会 1	逗子市環境会議まちなみと緑の創造部会	H26.7.19(土)	34
齋藤和久	環境情報部	夏休み金目川生き物観察会	金目川水系流域ネットワーク	H26.7.26(土)	145
石割隼人 新井聡史	調査研究部	川の汚れをはかる(環境防災フェア)	開成町環境防災課	H26.7.26(土)	40
齋藤和久	環境情報部	田んぼたんぼ探検隊	県立花菜ガーデン	H26.7.27(日)	57
齋藤和久	環境情報部	わくわく生き物観察会	平塚市土屋公民館	H26.7.29(火)	24
十河孝夫 齋藤和久	調査研究部 環境情報部	目久尻川の水質を知ろう	あやせ環境ネットワーク	H26.7.30(水)	28
齋藤和久	環境情報部	水生生物の生態系を考える	横浜中学高等学校	H26.8.4(月)	13
齋藤和久	環境情報部	川の生き物を調べよう	開成南小学校 PTA 成人教育委員会	H26.8.7(木)	47
齋藤和久	環境情報部	中津川生きもの観察会 1	(特非)神奈川県環境学習リーダー会	H26.8.19(火)	66
齋藤和久	環境情報部	田越川さかな観察会 2	逗子市環境会議まちなみと緑の創造部会	H26.8.23(土)	22
齋藤和久	環境情報部	中津川生きもの観察会 2	(特非)神奈川県環境学習リーダー会	H26.8.27(水)	62
武田麻由子	調査研究部	植物を用いた大気汚染を調べる手法について	(特非)かながわフィールドスタッフクラブ	H26.10.4(土)	30

事業名又は項目	概要
ウ 審議会、委員会等への職員派遣	<p>次に示す市町村の審議会、国又は市町村が設置した委員会、県機関等が主催する各種協議会等に職員を派遣した。</p> <p>(ア) 市町村の審議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 厚木市環境審議会 ▶ 平塚市環境審議会 ▶ 鎌倉市環境審議会 ▶ 鎌倉市生活環境整備審議会 ▶ 寒川町環境審議会 ▶ 二宮町環境審議会 <p>(イ) 国又は市町村等が設置した委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 環境負荷低減のための工場排水試験法に関するJIS開発「JIS K 0102 改正委員会」((一社)産業環境管理協会【経済産業省委託】) ▶ 化学物質環境実態調査分析法開発検討会議(LC/MS)((一財)日本環境衛生センター【環境省委託】) ▶ 化学物質環境実態調査分析法開発検討会議(GC/MS大気系)(同上) ▶ 道路交通振動検討会((株)エイト日本技術開発【環境省委託】) ▶ ISO/TC147(水質)アルキル水銀測定法国際標準化検討委員会((一社)産業環境管理協会【経済産業省委託】) ▶ 新幹線鉄道騒音対策検討委員会(中央復建コンサルタンツ(株)【環境省委託】) ▶ ごみ中間処理施設整備検討委員会(厚木愛甲環境施設組合) ▶ 環境リスク評価委員会曝露評価分科会((独)国立環境研究所) <p>(ウ) 県機関等が主催する協議会等</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 水源環境保全・再生施策推進会議(県環境農政局水源環境保全課) ▶ 科学技術政策推進会議(県政策局科学技術・大学連携課) ▶ 丹沢大山自然再生委員会(県自然環境保全センター) ▶ 丹沢大山保全対策推進会議(県環境農政局自然環境保全課) ▶ 横浜市・川崎市・神奈川県ヒートアイランド問題連絡協議会(県環境農政局環境計画課) ▶ 川崎市廃棄物処理施設専門家会議(川崎市廃棄物指導課) ▶ 県西地区(県営ほ場整備事業内山地区)環境情報協議会(県西地区環境情報協議会)

(5) 広報及び普及啓発

主催事業の広報、当センターの事業PRに関する活動、普及啓発等の活動を実施した。

事業名又は項目	概要
ア 記者発表	<p>行事案内4件、募集案内1件、計5件の記者発表を次のとおり行った。</p> <p>(ア) 水源河川県民調査員(ボランティア)を募集します(H26.4.15(火))</p> <p>(イ) 環境調査手法を習得し地域環境保全に挑戦を!～環境活動実践講座「環境調査コース」のご案内～(H26.4.16(水))</p> <p>(ウ) 第38回環境研究合同発表会を開催します～身近な環境問題や環境技術をテーマに研究成果を発表～(H26.5.9(金))</p> <p>(エ) あなたも環境学習を地域に広める指導者になりませんか!～平成26年度環境学習リーダー養成講座のご案内～(H26.8.7(木))</p> <p>(オ) 環境活動実践講座<地域生態系保全コース>～身近な自然の生き物の生態系と保全手法を学びます～(H26.11.19(水))</p>

事業名又は項目	概要
イ 施設公開等	<p>当センターの活動内容を広く県民に周知するため、科学技術週間及び随時施設見学を実施した。また、環境安全管理協議会構成員である周辺6自治会の住民を対象に体験型施設見学会を実施した。</p> <p>(ア) 科学技術週間施設公開 (H26.4.18(金)～19(土)) : 受入れ25人 (イ) 体験型施設見学会 (H26.10.18(土)) : 受入れ41人 【環境に関するミニ講演及び簡易水質測定・大気監視・電子顕微鏡観察・吸音の4テーマの体験を組み合わせた施設見学】 (ウ) 施設見学(随時) : 受入れ31人(6回)</p> <p>上記施設見学のほか、県青少年科学体験活動推進協議会の構成員として「子ども科学探検隊」を1日受け入れた。顕微鏡観察及び簡易水質測定の体験を組み込んだ施設見学を実施した。受入れ22人。</p>
ウ ポスター展示等	<p>当センターのロビー展示コーナーで、パネルを掲出して当センターの調査研究事業を紹介するとともに、大気常時監視結果や過去の大気汚染写真を掲出して地域環境に対する意識啓発を行った。</p> <p>次のイベントに展示ブースを出展し、ポスターを掲出して意識啓発を行った。</p> <p>(ア) 湘南ひらつかテクノフェア2014 (主催:平塚商工会議所、開催地:ひらつかサン・ライフアリーナ、H26.10.23(木)～25(土)) (イ) かながわ科学技術フェア2014 (主催:県政策局科学技術・大学連携課、開催地:新都市プラザ(横浜駅東口)、H26.11.16(日))</p>
エ 年報の発行	<p>当センターの前年度の業務報告として、「平成26年版(2014)年報 第46号」をH26.12に発行し、当センターwebサイトに掲載した。</p>
オ インターンシップの受け入れ	<p>就業体験の機会を通じ、学生の就業意欲の向上及び県行政に対する理解の増進を図るため、県が実施しているインターンシップ(学生実習生受け入れ制度)によりH26.7.24(木)～8.4(月)の8日間、大学生2人の受け入れを行った。</p>

3. 1. 2 環境学習業務

地域で環境保全や環境学習の活動を実践する市民の育成や支援を行うため、環境学習講座の開催、NPO と連携した環境学習事業の推進、環境学習施設利用者支援、環境学習担当者研修、環境学習情報の提供に関する業務を行った。

(1) 環境学習講座の開催

環境保全や環境学習活動を実践する市民向けに養成講座、2 コースで構成する実践講座及びスキルアップ講座を開催するとともに、教員向けの学習講座を開催した。

事業名又は項目	概 要
ア 環境学習リーダー養成講座	環境学習活動に関心のある県民を対象に、環境問題の基礎知識や市民活動プログラムの実践手法等の体験的な講習を通して、地域で環境学習活動を実践する県民を育成することを目的に、表 3.1.2-1 に示すプログラムの講座を開催した。受講者 40 人、修了者 19 人（修了者は科目の 8 割以上を受講した受講者。以下同じ）。
イ 環境活動実践講座	環境保全活動に関心を持つ県民を対象に、環境調査コースと地域生態系保全コースの 2 種の講座を開催した。 (ア) 環境調査コース 水質、大気、生物等の調査分析法の講習や実習を通して、地域で環境調査活動を実践する人材を養成することを目的に、表3.1.2-2に示すプログラムの講座を開催した。受講者16人、修了者11人。 (イ) 地域生態系保全コース 水域環境を中心に生物多様性のモニタリングや保全活動の実践に役立つ知識やスキルの講習等を通して、地域生態系保全活動を実践する人材を養成することを目的に、表3.1.2-3に示すプログラムの講座を開催した。受講者38人、修了者24人。
ウ スキルアップ講座	既に環境学習活動を実践する県民を対象に、第一線の研究者による講演を通して、実践活動に必要な最新の知識習得の機会を提供することを目的に、表3.1.2-4に示すプログラムの講座を 2 回開催した。第 1 回受講者27人、第 2 回受講者40人。
エ 教員等のための環境学習講座	教職員及び環境教育に関心の高い県民を対象に、学校教育で利用可能な環境の知識や調査手法の講習を通して、児童生徒に対して環境学習を行う人材を育成することを目的に、表3.1.2-5に示すプログラムの講座を開催した。受講者17人。

表 3.1.2-1 環境学習リーダー養成講座

開催日	内 容	講 師
H26.10.4(土)	環境学習論 (講義) ネイチャーゲーム (実習) 注1	東京学芸大学名誉教授 小澤紀美子 日本シェアリングネイチャー協会 村田範子
10.11(土)	環境科学センター紹介 神奈川の環境 (講義)	環境科学センター 池貝隆宏 環境科学センター 池貝隆宏
10.18(土)	流域下水道のしくみ (講義) 下水処理場施設見学 (見学) 注2 神奈川県のごみとリサイクル (講義) 身近な環境調査 (講義・実習)	環境科学センター 池貝隆宏 環境科学センター 池貝隆宏 県資源循環課 関 博太 環境科学センター 齋藤和久
10.25(土)	身近な生きものの観察方法 (実習) 注3	大井町教育委員会おおい自然園 一寸木肇
11. 1(土)	市民活動とは (講義) 太陽光発電と再生可能エネルギー入門 (講義)	ソーシャルコーディネートかながわ 手塚明美 (独)産業技術総合研究所 豊島安健
11. 8(土)	化学物質と環境リスク (講義・実習) 大気環境学習の手法 (講義・実習)	環境科学センター 池貝隆宏 (特非)神奈川県環境学習リーダー会 長村吉洋
11.15(土)	ワークショップの手法 (実習)	公益財団法人キープ協会 川村悦子

注1 平塚市総合公園で実施

注2 神奈川県下水道公社柳島管理センターで実施

注3 大井町ゆめの里で実施

表 3.1.2-2 環境活動実践講座-環境調査コース-

開催日	内 容	講 師
H26.5.31(土)	水生生物とその周辺の環境調査 (講義・実習) 注1	元環境科学センター職員 野崎隆夫 萩野自然観察会代表 花上友彦
6. 7(土)	大気分析 (実習) 身近な自然の調べ方 (講義・実習)	環境科学センター 鷺山享志 東海大学教養学部准教授 藤吉正明
6.14(土)	磯の生き物調査 (実習) 注2	前葉山しおさい博物館館長 池田 等
6.21(土)	水生動物同定 (実習)	元環境科学センター職員 野崎隆夫
6.28(土)	水質分析 (実習) 市民が行った環境調査活動の紹介 (講義) 「葛川の水質調査活動」 「トコロジストの観た大和市野鳥の森」 環境調査計画の立案 (実習)	環境科学センター 鷺山享志 葛川をきれいにする会 藤田尚志 トコロジストの会 弘中健一 (特非)神奈川県環境学習リーダー会 柳川三郎

注1 伊勢原ふれあいの森で実施

注2 葉山町柴崎海岸で実施

表 3.1.2-3 環境活動実践講座-地域生態系保全コース-

開催日	内 容	講 師
H27.1.24(土)	地域生態系保全 (講義) 田んぼなど水辺生態系保全 (講義)	東海大学教養学部准教授 藤吉正明 環境科学センター 齋藤和久
1.31(土)	葛葉緑地における生態系保全の実例(見学)注	秦野市くずはの家所長 高橋孝洋
2. 7(土)	市民環境保全活動の実践手法(講義・実習)	(特非)神奈川県環境学習リーダー会 柳川三郎

注 秦野市くずはの家で実施

表 3.1.2-4 スキルアップ講座

開催日	内 容	講 師
H26. 7.10(木)	第1回 地球温暖化対策について学ぶ	(公財)地球環境戦略研究機関研究員 仲田宗行
H26.12.11(木)	第2回 侵入生物による生物多様性への影響	(独)国立環境研究所主席研究員 五箇公一

表 3.1.2-5 教員等のための環境学習講座

開催日	内 容	講 師
H26. 8. 1(金)	グローバル化時代の環境教育・環境学習 (講義) 海岸生物による磯の環境調査 (講義) 水生生物の調査法 (実習)	東京都市大学環境情報学部准教授 佐藤真久 神奈川工科大学非常勤講師 萩谷盛雄 環境科学センター 飯田信行

(2) NPO と連携した環境学習事業の実施

かながわサイエンスサマー事業として、当センターの環境学習講座の修了者が中心となって活動している(特非)神奈川県環境学習リーダー会と共催で夏休み子ども環境体験教室を実施した。

事業名又は項目	概要
ア 夏休み子ども環境体験教室	小学生を対象に環境について考える機会を提供するため、夏休み期間中に環境に関する様々な実験や実習を体験する講座を次のとおり6日間開催した。参加総数142人。 (ア) 人工の雲をつくろう : H26. 8. 2(土)、参加27人 (イ) ケナフ知ってる?ハガキを作ろう : 8. 4(月)、参加20人 (ウ) いろいろな電池を作ろう : 8. 5(火)、参加35人 (エ) 手づくり顕微鏡で生き物を観察しよう : 8. 6(水)、参加25人 (オ) 二酸化炭素について調べてみよう : 8. 7(木)、参加14人 (カ) いろいろな方法で電気を作ってみよう : 8. 8(金)、参加21人

(3) 環境学習施設利用者支援

環境学習施設のオープン利用を推進するとともに、環境学習用資機材の貸し出しを実施した。

事業名又は項目	概要
ア 環境学習施設のオープン利用の推進	環境学習施設4施設を一般開放し、表3.1.2-6に示すとおり施設のオープン利用を推進するとともに、実験指導などの利用者の支援を行った。
イ 環境学習用機器類の貸出	環境保全活動の啓発のため、環境学習用のビデオ・DVD、環境測定用機器、観察機器等の貸し出しを延べ137台(45回)行った。

表 3.1.2-6 環境学習施設

施設名称	施設概要	施設利用数 ^注
環境学習室	映写設備つきの講義室(40人収容)。環境学習講座や施設見学等受け入れて利用するほか、環境活動団体が行う自主講座の拠点施設として貸し出しを実施。	1,059人(42件) 【240人(11件)】
実習室	理化学実験機材を備えた実験室(40人収容)。環境学習講座で利用するほか、水のpH、COD、全窒素、全リンの分析、大気中二酸化窒素の分析等を行う環境活動団体に貸し出すとともに、技術指導を実施。	1,465人(83件) 【400人(16件)】
環境資料室	環境関係図書を配架した資料調査スペース(10人収容)。環境活動団体や市民に貸し出しを実施。	37人(18件)
環境活動室	環境活動団体用打ち合わせスペース(15人収容)。環境保全団体に貸し出しを実施。	219人(46件)

注 【 】内は、当センター主催講座における件数で内数

(4) 環境学習担当者研修

自治体が行う環境学習事業を効率的に推進するため、行政担当者の研修を実施した。

事業名又は項目	概要
ア 県・市町村環境学習担当者研修	県及び市町村の環境学習担当職員を対象に、環境教育関連法令や環境学習事業に利用可能な実践例の習得等に関する5講座の研修をH26. 5. 22(木)、23(金)に実施した。受講者延べ31人。

(5) 環境学習情報の提供

環境学習のためのホームページを運用し、環境学習に関する情報を発信した。

事業名又は項目	概要
ア 地球環境学習ひろば	環境学習講座開催情報、施設利用案内、教材ダウンロード、環境活動人材情報検索等の情報を提供した。アクセス数1,277,442件。 URL http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.html